

木質系油吸着材の企業化計画が始動

林産試験場が開発した、間伐材などを原料とした木質系油吸着材の企業化が、本格的に進められています。

木質系油吸着材の企業化に向けて林産試験場は、北海道森林組合連合会（道森連）、株式会社札幌緑翠社と共同研究を行い、実用生産機の開発や製造試験を行ってききましたが、このたび、企業化の見通しを得ることができました。

また、木質系油吸着材の応用分野についても民間企業など共同研究を行い、その実用化の推進を図ってきました。その一つとして、工作機械用の水溶性切削液中の不純油を除去する装置を開発することができました。

企業化について記者発表

製造、販売のめどが立ってきたことから、道森連では10月18日に北海道東京事務所一般紙、石油化学工業紙、木材業界紙などマスコミ各社を招いて木質系油吸着材の紹介、事業化計画の説明会を行いました。

また、開発新製品の水溶性切削液中の不純油の除去装置の紹介や実演などで企業化へ向けてのPRに努め

ました。

工場建設

道森連では平成9年度をめどに、企業化のための木質系油吸着材の製造工場建設の計画を進めています。工場は上川管内の東川町に予定されています。製造装置は現在林産試験場で試験中の一基（写真1）を移設し、さらにもう一基新規の装置を導入して、当面年間100トンの生産を見込んでいますが、需要動向によっては拡張を考えています。

工作機械用の不純油除去装置の開発

開発した水溶性切削液中の不純油の除去装置（写真2）は、切削液をサージタンクから、バグフィルター、油吸着材フィルターを通して循環させて、バグフィルターでスラッジを除去、油吸着材フィルターで不純油を除去する方式になっています。油除去の性能は、処理する液などにもよりますが混入不純油の濃度を100ppm以下にすることが可能であり、自動車工業界や機械工業界などへの普及が期待されます。

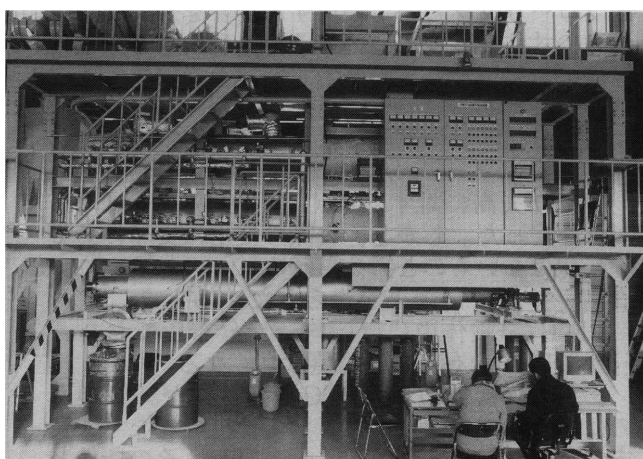


写真1 現在、林産試験場で試運転中の製造装置

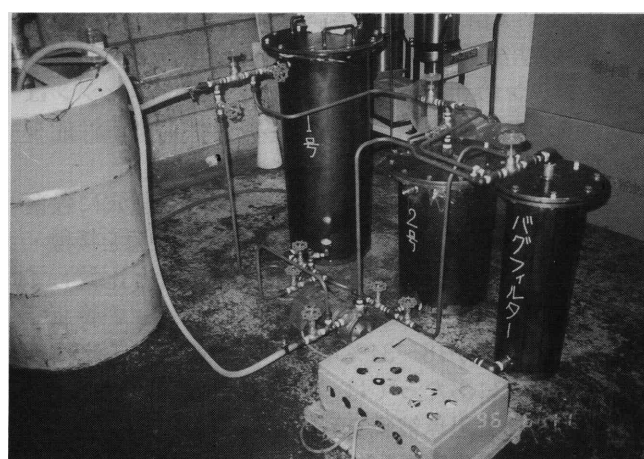


写真2 水溶性切削液中の不純油除去装置

（林産試験場 油吸着材プロジェクトチーム）